

## 第5回 観光交流拠点づくり推進委員会 会議録

日時 平成26年8月20日（水） 19時～21時00分

場所 羽咋市役所 2階 203会議室

### 出席者

委員：林 一夫（羽咋市商工会副会長）  
川井 康子（観光ボランティアガイドこんちま羽咋副会長）  
清水 篤郎（羽咋市観光協会宿泊委員会委員長）  
中田 昌宏（羽咋青年会議所事務局長）  
松村 克行：羽咋市町会長連合会理事  
金田 純一（千里浜財産区管理会会長）  
淡路 幸子（能越ケーブルネット営業部）  
浅野 由美子（公募委員）  
欠席（粟木委員、西東委員）

オブザーバー：藤本 康司（石川県土木部道路建設課担当課長）  
浅村 精一（石川県中能登土木総合事務所次長）

アドバイザー：濱 博一（石川県地域づくり協会専任コーディネータ）

市側出席者：備後 克則（企画財政課長）  
川口 哲治（商工観光課長）  
山本 裕一（商工観光課課長補佐）  
松田 義人（商工観光課係長）  
木村 貴志（地域整備課技師）

コンサルタント：(株)日本海コンサルタント4人  
会議傍聴者：なし

### 審議事項

1. 開会
2. 委員長あいさつ  
（略）
3. 千里浜インター周辺整備の方向性  
（1）千里浜インター観光交流拠点施設の機能について  
事務局説明（略：別添会議資料参照）

【委員長】

- ・施設の各機能について事務局にまとめてもらった。皆さんの意見を集約したものであるが、実現できるかどうかは分からないという話もあった。これだけはどうしても組み込んでほしい、この機能が足りないということなどがあればご意見をいただきたい。
- ・実際に、岐阜県を視察し気付いたことや課題として各自で考えていたこと、この場で発言いただいたものなどが組み込まれている。
- ・特に、展望台について、高さのことや事業費などについて事務局で検討したが、いかがか。

【委員】

- ・展望台の場所だが、調整池の東側である。道路を挟んで、さらに松林がある。
- ・レストハウスも同じような夕日を見れるレストランがある。
- ・海と松林と夕日を眺める景色と考えるのであれば、25mはいらぬのでは。

【委員長】

- ・基本的な構想づくりでの提案ということであり、実現の可能性などについては、市の方で決定してもらおうとして、皆さんには自由に発言いただきたい。

【委員】

- ・予定地に一番近い施設はホテルゆ華であるが、このゆ華の活用についてはどう考えているか。現状では、宿泊客を優先にしており、日帰り（立ち寄り）の者を拒んでいる状況である。今後、どのようにしていくのか。道の駅ができて、立ち寄ったお客さんが、気楽にゆ華に入って楽しめるかということが課題。足湯という案が出ているが、どこまでできるか。現状では、市民が行っても排除される。現状を考えると、それほど活用できないのではないか。

【委員長】

- ・各周辺施設の有効利用についてのご意見である。

【委員】

- ・現在も、ゆ華では回数券を出している。しかし、値上がりした。

【委員長】

- ・割引チケットのようなものを出しているようだが。（手形である）

【委員】

- ・以前、濱先生からも、ゆ華はグレードの高い施設であるとのこと意見をいただいた。
- ・開かれた施設として、気楽に入っていくことができるのかが疑問である。
- ・もっと庶民的施設に下げられるのか。そうなると価値がないのか。

【委員】

- ・濱先生からも情報をいただきたい。
- ・一般的に言う、成功している道の駅の構成要素は、物産施設で、その次が飲食施設だと思う。ほしいその2施設が打ち上げの構成要素と考えていいか。

【アドバイザー】

- ・そうである。飲食施設は、ピークがある。

【委員】

- ・道の駅における収益を上げることができる構成要素は、物産販売であるので、では、その物産販売施設をどのようなアプローチで、その収益性を高いものにしていくか重要。
- ・その他の施設は、ついでのようなもの。
- ・羽咋市の場合には、どのようにしていくのかを考えたいと思っている。

【委員長】

- ・運営主体を決めたうえで、その中で検討していくことになる。
- ・収益ばかりを追求すると、情報発信のような道の駅の機能を損なう恐れがある。

【委員】

- ・情報発信機能は、後付けでも可能である。道の駅の建物だけを建てて、情報機能は後で付けることもできるのではないか。その方が、情報も新しくいい。
- ・まずは、売り上げが上げられる施設を建てて、その利益からその他の機能を更新していく方向がいいのではないか。

【委員長】

- ・ユーフォリアは、金額を高くして飲食施設も充実させて、トレーニングルームを無料開放している。市民の健康増進を図る施設でもあるので、収益は、二の次のような考えなのではないか。そのような視点について、どう考えるかによっても違ってくる。
- ・本来の道の駅の機能としては、トイレと駐車場と情報発信機能があれば、目的は達成できるものである。
- ・地域振興でどのように肉付けしていくのかが必要になる。

【委員】

- ・羽咋の道の駅は、収益を上げるのか、それとも、年間予算を付けて運営していくのか。このことは、一番重要な部分である。
- ・この方針については、この委員会で方向性だけでも決めてどうかと思う。

【委員長】

- ・次の議題としている運営手法の方で議論することとする。

【委員】

- ・展望台について、近接に松林があるとの意見があったが、ユーフォリアが建っている場所ももともとは松林であった。
- ・取得が大変であるという話も、以前話しがあったが、この松林の中に、道の駅を作るとはできないのか。

【事務局】

- ・ゆ華との関係であるが、ゆ華はリゾートホテルとして建設されているので、その雰囲気を入りに入られてお客さんが入っているので、道の駅ができた場合でも、道の駅を訪れたお客さんが物産や飲食を楽しむということは考えていない。
- ・ゆ華の温泉（源泉）施設があり、面する道の駅にお湯を引っ張って足湯などに活用したいと考えている。改めて温泉を掘る必要がない。
- ・収益施設か、その他機能のどちらに力を入れていくかのご指摘があったが、物販や飲食施設の方に力を入れていきたい。
- ・収益についても、大きな黒字を生まなくても、ある程度の運営ができるような仕組みが必要であると考えている。市がお金をつぎ込みながら運営をしていく施設では、市民の方々の理解が得られないと考えている。そのための仕組みについて、真剣に考えていかなければならないと思っている。
- ・松林の話題が出たが、整備が難しいといった箇所は、のと里山海道の西側（海側）であり、その場所は、国定公園や保安林の指定をされている関係で、難しいという説明をした。
- ・ユーフォリアについては、そのような指定されている場所ではないので、制限はない。
- ・道の駅の整備に当たり、物販と飲食を主に考えているので、観光スポットとしての展望施設については、建設費や維持費、利用頻度、必要性などを考える必要がある。実際に、展望台に上がって、夕日が見れる日がどれくらいあるのかも関係してくる。あればいい施設ではあるが、絶対がないといけない施設かどうかと考えるといかがかという考えである。

【委員】

- ・トイレに関して、女性のトイレの個数に配慮という記載があるが、障がい者にやさしい

まちと言っているが、障がい者にやさしい施設ではないとの声も聞いている。

・複数人の障がい者を連れて出かけたときに、トイレが1か所しかない。最低でも2個はないと「やさしい」の「や」の字にもいかないとの意見をもらってきた。障がい者用を2個は作っていただきたい。

#### 【委員長】

・設置基準のようなものはあるか。

#### 【事務局】

・トイレ全体の数として、10器以上は作ることとなっているが、障がい者用トイレは設けることとはいるが、数までは規定していない。

#### 【委員】

・高松は、女性トイレが8器である。明るく防犯の面でも機能していると思う。

・高速道路でもトイレの数が多い。普通の人も使えて、授乳用やオムツ交換もできる少し広いだけの多様に使えるトイレがある。

・障がい者用にトイレはすごく広い。障がい者に本当に優しいのは、数であると思う。スペースはそんなに十分にはいらないと考える。

・車いすの方も使えるやや広めで、スムーズに入れるトイレがあればいい。

・小さな子供は、親と一緒にいないと危ないので、小さなイスを設けているところもある。

・最新の設備のいいところを採用すればいいと思う。

・展望台のことが残念。道の駅の施設として高くしなくても、遊歩道のところで、東屋までいかない、もう少し手前で見れるところがあれば魅力的かなと思ったが、コスト面なども考慮し、実現できる場所はないのだろうか。大きな施設自体を高層にするのは、難しいと思うが、あきらめずに方法を考えられないか。

#### 【委員】

・里山海道の西側は、県有地であるが、展望施設だけの使用許可をもらえれば、使うことは可能であろう。いろいろな方法はあると思われるが。

・トイレの関係であるが、付添者、車いすの人のためのトイレが2か所はほしい。その他に、障がい者といっても、自分のように元気な障がい者もいる。立ち上がる時の手すりがあれば助かるということはある。この点も考慮していただければと思う。

#### 【委員長】

・ユーフォリアや休暇村の露天風呂と、和倉温泉の露天風呂と比較をすると、和倉温泉の方は、七尾湾が一望できるが、休暇村の方は竹垣に囲まれており、ユーフォリアも松林や

夕日は見えるが海が見えない。

- ・ 休暇村の場合も、千里浜の場合も、少し足を伸ばせば、海に行き見ることができる。
- ・ すべての条件を満たすことは難しいと考える。千里浜の場合は、少し散策してもらって海を見てもらう。ドライブウェイという最高のロケーションが整っている。
- ・ 無理をして、高台に上って、どうしても夕日を見る必要があるのかと思う。

**【事務局】**

- ・ 展望台についての話題が多いので、他の委員さんにもご意見をお願いします。

**【委員】**

- ・ いらなと思う。

**【委員】**

- ・ 千里浜の夕日は魅力の1つではあるが、展望台までなくても、千里浜海岸に行ってみればいいと思う。費用対効果という点で厳しいかなとは思ったが、あったらあったでいいかもしれないので、何か方法がないかなと考えている。

**【委員】**

- ・ 今の場所だとすると難しいと思う。
- ・ 里山海道の海側に道の駅ができるのであれば、雨の日でも荒れた日でも、海を眺めることができる施設があればいいなと考えていた。

**【委員】**

- ・ 海までは400mある。ある程度の高さがないと海が見えない。
- ・ 高さやコストの関係があるので、この場所にこだわらずに、別の場所であればいいと思う。そのような施設も含めて、道の駅のコースとすればいい。

**【委員】**

- ・ 例えば、日本一高い展望台がある道の駅というのであれば目玉になるからいいかもしれないが、中途半端なものであれば必要ない。クロスランド小矢部のような特徴的なものであれば、それを目当てに来るかもしれないが、そうでなければ必要ない。

**【委員】**

- ・ あった方がいいが、維持費がどのような形で負担になってくるのかを考える必要がある。
- ・ 松林図屏風をイメージした松林と一緒に眺めることができる施設を作れば、日本一、世界一を目指すことができる。

**【委員】**

・高い展望台上って夕日を見ることができるといいので、そのような映像を大型スクリーンに映し出す設備を完備すればいい。何百メートルの高さから眺めるとこんな景色が見れるというような映像を放映する。365日疑似体験できる。毎日、ドライブウェイを走っている風景を見せる。毎日、砂像体験をしている映像を見せる。そのようなシアタールーム。莫大なお金をかけて高い建物を作る必要はない。気球を上げるのも1つの案である。(なるほど飛ばせばいい)

**【委員長】**

・固定施設にこだわる必要はない。

**【委員】**

・例えば、上がる人から100円取る。受付を置く必要はなく、かつ、持っていけないような仕組みを作る。

**【委員】**

・何度か展望施設を上りに行ったが、「あのようなしんどい施設はもういい」という人が多い。ましてや、100円取ったら大変なことになる。

**【委員長】**

・皆さんからの意見を聞いたので、基本構想に落とし込むかどうかの判断は、お任せするというようにする。

**【アドバイザー】**

・展望施設の是非という話題になっているが、公園に作るか、道の駅に付随する施設として作るかの判断は違う。見えるか、見えないか、上がって楽しいか、楽しくないかではなく、道の駅は基本的に商売として成り立たないといけない施設である。

・お客さんの滞在時間をいかに長くするかを考えなければならない。滞在時間が長くなればなるほど、いろいろなお金が落ちていくことになる。

・トイレだけ済ませて出ていってしまうと1円にもならない。例えば、足湯で休んでもらって、ちょっと喉が渴き、ジュースを買ってもらえる、というような世界である。

・商売の面から、滞在時間を伸ばすことをどう考えるかである。

・四万十が「おちゃくりカフェ」を作っている根本は、特産品ができたという事実もあるが、カフェというものは連続的にお客さんが入ってくる。レストランはお昼だけ。カフェは滞在時間が長くなり、お金が落ちていく。ビジネスとして考えなければならない。

・展望台も、足湯も、遊歩道も、これらをこの道の駅にどのように作りこんでいくかとい

うことが重要。道の駅の経営に資するような形で滞在時間を伸ばすものを作り込んでいくかということである。

- ・先ほど、試算が示されたが、それほどのガンコな施設を作ってしまったら、維持費も大変で採算が合わないのは、目に見えている。
- ・いかに初期投資を押さえながら、ランニングコストも小さく、なおかつ滞在時間を確実に伸ばせるものであるかどうかの判断が必要。
- ・トイレの話題もあったが、ある都市のバリアフリーの設置基準についてお手伝いしたことがある。障がいのある部分の違いで、利害も変わってしまう。例えば、点字ブロックは目の不自由な方には重要であるが、車いすを利用する方には不便なものとなる。点字ブロックのところに自転車が置かれていたりすると転んでしまう。健常者の思慮の至らなさがそのようなことを引き起こしてしまう。
- ・車いすの幅も関係する。幅が70センチもない歩道は通行できなくなる。掛け算的な考え方であり、一か所でも通れない箇所があれば、0となる。必ず0を作らないことが重要。
- ・バリアフリートイレという点で、障がい者用のトイレと言った時点で、差別したことになる。心のバリアフリーとも言われる。
- ・男子や女子トイレに多少広いスペースを確保してあるところがあれば使えるという配慮は大変重要なこと。ただし、障がいを持った方が女性で、付添者が男性だった場合、女性トイレにも男性トイレにも入れない。そういう意味で、両姓が使えるバリアフリートイレが必要となる。数があればいいという問題でもない。広さがあればいいという問題でもない。鏡の傾斜についても、車いすの方には、傾斜がある方がいいが、健常者にとっては、不便なものとなる。障がいの程度や部位によってニーズが異なってくる。
- ・皆さんに少しずつ我慢してもらって、ほぼ全員が使える最大公約数のような施設を作ることが必要となる。実績のある設計者がしないと使い勝手のいいものにならない。
- ・この話は、誰がどうやって作るのかということに関連してくる。

## (2) 道の駅の管理運営手法について

### 【事務局】

- ・資料については、専門的要素があるため、コンサルさんに補助いただき作成した。当資料をもとに、濱先生からどのようなメリット、デメリットがあって、どのような運営主体が望ましいのかなどといった方向性について、先生からご指導いただいて、その後に各委員さんからご意見をいただきたいと思っている。

### 【濱 博一 先生からの講義】

- ・資料4、5ページをもとに講義していただいた。
- ・外形と内容についての解説をいただき、特に内容としての「人」と「資本」という要素



が運営を考えるうえで重要であり、設計以前の早い段階で決定するのが望ましい。

- ・管理運営手法として、消去法として民設民営となっている現状があり、特に資料5ページの運営母体について解説。
- ・特に、2005年から法整備されたLLCとLLP制度についての詳細な解説をいただいた。

#### 【委員長】

- ・トイレや物販施設、レストランの管理、駐車場の維持など駅長の権限や組織の範囲というものは、すべての施設を含めての収支ということになるのか。

#### 【アドバイザー】

- ・道の駅によって、うまくやっているところと丸投げしているところがある。
- ・トイレや情報発信施設は、公として誰でもが使える施設なので、これを行政が面倒を見て、営利面だけを範囲とするという場合は(先生が示した表の中間部分)この辺りになり、全てを面倒見てくれという場合は、この部分になる。どこを取るかということは大事なことである。
- ・運営を渡した後の話をしているが、行政が作った施設を「これ使って」と渡されたら、この施設は使いやすい施設ですかという話である。
- ・四万十の例からすると、道の駅ができる2年前から、商品開発についても(株)四万十ドラマが受注している。施設の設計は設計会社が受けているが、トータルデザインというものを迫田氏というデザイナーが受けている。設計と商品開発、デザイナーが委員会を組織して「こんなふうにしないと使えない」「デザインの的に合わない」というふうに議論を重ねている。四万十の場合は、以前から商品開発とデザインの部分が協力体制があった。
- ・そういうことを仕掛けられるかということ。設計する際に、そのような議論の場を設けられるかにかかっている。設計をお任せにしておくと、運営する際に勝手の悪い建物になる場合がある。運営しにくい施設になると、収益を上げづらいことになる。
- ・施設の運営費のリターンが行政に入ってこないという悪循環が生まれる。お金を出さないと民間側が管理を受けないということになる。

#### 【委員】

- ・初年度はとりあえず、施設の管理部分で行政と民間で分けて、数年後に再考していくというやり方がいいのではないか。
- ・現在の羽咋市の指定管理では、施設の大きな修繕に関しては、市がやって、その他の小さな修繕については運営会社がやっている状況である。施設の大規模修繕を受託側ですべてできないというのは大きい。
- ・1年目で運営が始まっていない状態でその辺りを判断するのは難しい。1年目で再考し、うまく運営が回って利益が生まれたことを受けて、再考するという形がいいと思う。

【アドバイザー】

・施設ができてから、運営を決めていくのではなくて、その過程から商品開発やデザインの担当者が共同で施設の設計に関わっていくのが望ましいと思う。

【事務局】

・四万十の場合は、地域に生活をしてデザイナー業も続けていた人。自給自足生活をしているなかで、地域の人たちの気持ちを汲み取ることができるデザイナーとして関わることができたと話していた。

・地域に住むデザイナーを探し得ていないが、どのようにそのような人材を発掘すればいいのか。

【アドバイザー】

・迫田氏が全国で「地デザイナー」養成塾のようなものを行っている。

・石川県でもやっており、塾生の個別の氏名までは聞いていない。

【事務局】

・迫田氏のように、羽咋市民の思いを地域デザインとして落とし込んでくれるような人材がいるのかが見当がつかない。

・都会の立派な人がデザインしたものには、地域の人々の思いが入らず、単発のものとなりその後の継続性がないものとなる。

【アドバイザー】

・トイレのバー（握り手）の話が出ていたが、基準がこうなっているからいいだろうという設計者に任せるのではなく、使い勝手を考えた検討が必要だと考える。

・誰がやるのかが重要。勝負はこの体制が採れるかが鍵となると考える。

・普通の道の駅になるのか、羽咋市が目指す「はくい再生」の目玉の内の1つになるのかが決まると考えている。

・郡上市の水野さんの場合も、相当に設計の段階で意見を入れている。

・設計者に丸投げすると、自分の趣味の世界で図面を描いてくる。激論は必要。

【委員長】

・委員の皆さんは、専門的な知識を持ち得ていない。

【アドバイザー】

・この道の駅をどのようにしたいかということである。

・普通の道の駅でいいやということであれば、どのようなやり方でもある。そうでないものを目指すのであれば、それなりのいばらの道がある。

・そのいばらの道を歩いた人たちが実際にはある。前例があるということ。

#### 【委員長】

・駅長を誰がするかという点で、羽咋で商売している人や、やってみようかという人を思い浮かべて見ると、近所にいなくはない。ある程度、マーケティングや経営を分かった人でないと都合が悪いだろう。

・役所の方でも、民営で任せていくということになれば、なるべく早い段階で選定していかなければならないと思うが、この段階では難しいと思う。

#### 【アドバイザー】

・この委員会では、その話ができないと思うし、するような組織でもない。

・どのようなことに留意して進めてほしいということ、皆さんからお聞かせいただければと思っている。

#### 【委員長】

・公設民営ということであれば、5ページの第3セクターが道の駅の運営では多い現状ではあるが、これから考えていく際には、LLCやLLPという経営主体もあり得るというお話をいただいた。

・この委員会では、経営主体はこういう形が望ましいということ、述べてほしい。

・皆さんの意見をお聞きしたい。

#### 【事務局】

・具体的な内容までは難しいと思うので、委員長さんが言われたように、まず行政が経営することはまずないでしょうとのことでしたが、であれば民間での経営（公設民営）になることが前提となる。

・その中で、羽咋市らしい、いい道の駅を作るためには、どういう経営主体を選んだり、駅長を選んだりすればいいのかについての意見を、この委員会ではご意見をいただきたい。

#### 【委員】

・まずは道の駅を作ってみる。いきなり立派な道の駅を作るのは難しいかなと思う。

#### 【委員】

・やってみないと分からない。ただし、やったらやり直せるかであるが、やり直すことはまず無理だと思う。独自のものができるのであれば、そこまで考えてほしい。

【委員】

・どこか外から入ってくるのではなく、地元のことをよく知っている地元の方や地元の企業・団体に携わってほしい。神子の里は、地元の方でやっており、つながっている感があり、売っているものなども地域の方が作ったものが売られている。

【委員長】

・神子の里は株式会社で運営されている。市としては、大小はあるが、そういう実績があるということである。

【委員】

・伊藤忠が道の駅を運営していることを聞いたことがあるが、それが PFI 方式ということだと思う。そのように大きな企業が参入してきて経営をされたとのこと。

・神子の里は、町の団結力というような形で運営されているが、羽咋市全体と見た時に、公設公営となると、私たちの税金をどのように使うかということになるが、お任せという雰囲気になる。公設民営ということになると、民間の企業に任せることになる。なんか道の駅ができたんだって、行ってみようかという感じではなく、JA や漁協、商工会のように組合員が出資している。羽咋市民で道の駅に対し気持ちが動き、愛着を持つという形になるには、そのような組合形式で、自分も少しは出資しているという気持ちがあった方が望ましい。もちろん専門の方に、任せてするが、1 市民でもふるさと納税のように、道の駅に愛着を持てるような形がいい。

・花火大会のチラシを見て感じた。多くの市内の企業の方々が出資していた。このようにみんなが出資すれば、かなり大きなものになり、それを専門の方にお任せ、報告を受けるという形が望ましい。そうすれば、気持ちも動き、足も運ぶことにつながる。

・そうなった場合には、自分も協力したいとの気持ちを持っている。

・羽咋の道の駅ができるのであれば、みんなの力でできたらいいなと思っている。

【委員】

・同感である。地元の方が出資した形の運営を望む。

・自分たちの市民の気持ちを汲んだ運営をお願いしたい。

・JA とも提携して、地元の農家の方たちも参入でき、その他の地域の方々もたくさん関わられるような方法でやれば、地元の人もたくさん通ってもらえるのではないかと思う。

【委員】

・公設民営にするということは、指定管理者を指定する公募条件をどうするかという視点で答えさせていただくと、利益を上げることが第 1 条件である。それに加えて、地元にと

のように利益を還元していくかという観点がしっかりしているかということが大切。

- ・しかし、地元で利益を落とす仕組みとなると特産品の販売という形になると思うが、その仕組み自体は運営主体だけで作るのは無理がある。四万十方式の運営主体をすべて決めるというのは無理である。
- ・仕組みづくりについては、行政プラス民間で協議していく必要がある。
- ・この仕組みをもとに、このように貢献していくという事業計画を立てる企業であればいいと考える。

#### 【委員】

- ・実際建ててみるというのも、1つの考えであると思う。
- ・方向性となれば、指定管理者でやっていくことになるかと思う。
- ・重要なことは、人と資金面ということになるという話をいただいたが、企業や個人の団体を公募したうえで、構想を立てて進めていく形になるのではないかと思う。

#### 【委員長】

- ・郡上市の水野氏のような人もいた。民の立場でいうと、そのような方が周りにいるのかどうか。
- ・珠洲市のすずなりの駅長は、商工会議所の副会頭が無給、ボランティア的にやっており、職員にはある程度の給料を支払っていると話していた。
- ・市の窓口のように外部に民間委託し、市職員を減らしていくという流れがあるが、市職員がやってみるといふ形も考えられる。
- ・委員の皆さんからの意見では、出資者も多くなって、地域もよくなり、行政にも負担をかけないような民営の立場で収益が上げられるような形態が望ましいとの意見だった。
- ・第3セクターという形もこれまでによくあったようであるが、最近では、民間委託の形式が多くなっていると思う。

#### 【委員】

- ・指定管理者は、ある程度のボランティア精神を持っていないとできないと思う。
- ・大きな修繕が必要となった場合には、市の財政事情で直せないものがあるということは理解している。
- ・自己負担で、よくしたいというボランティア精神がないとできない。このような精神がないと、なかなかいい公共施設はできないと思う。

#### 【委員】

- ・企業努力を発揮しているのを、市民は見ている。

### 【委員長】

- ・方向性が決まったら、人の募集を早くからやっていくということとはできないか。

### 【アドバイザー】

・各地域の考え方や事情で変わってくると思うが、準備期間が長ければ長いほど、委託を受ける側は、覚悟を決めて準備できるので望ましいことである。短期間で決めると大変なことになる。

・四万十ドラマという第3セクターは、道の駅がない時に、100%自治体の出資で立ち上げられた組織であるが、畦地さんがJA職員から引き抜かれて会社を立て直した。

・ある程度利益を生むようになって、流通の仕組みを作り直したうえで、あるタイミングで行政から株式を住民が全部買い取っている。現在は、純粋な民間企業となっている。大変珍しい例である。

・羽咋市の場合は、行政が100%出資して第3セクターを作るのは難しいと思うので、住民ないし事業に関わっていこうという意欲を持った法人で株式を占めていくというのはいい考え方だと思う。

・ある程度、社長の経営手腕は大事になるが、本来の株式会社は株主の意向を聞いて運営することが望ましい。

・売買の世界では、生産者の売り上げ（原材料費）が買ったたかれる傾向がある。農業の再生や持続可能性が困難になる。そうすると、耕作放棄地や後継者の問題が出てくる。

・適正価格で買うということを四万十は継続している。生産者の株を引き受けているので、当然そのような仕組みが、株主総会などで働いてくる。

・そのような仕組みを地道に作り上げていくつもりで臨むのか、それとも、時間がないから簡単にやってしまうという話である。

・行政主導でやった例とすると岩手県遠野の風の丘があり、菊池さんという市職員によるものや、経営的感覚に優れた職員が運営に関わった郡上市の水野さん、民間の優れた経営感覚で運営を任せている四万十とおわが挙げられる。

・この3つのパターンのいずれかに、羽咋市の答えがあるはず。この3つのモデルを注視していただいて、自分たちの地元が一番合う手法を見つけてほしい。

・県の事業で、そのような方々をお招きして勉強できるものがあるので、活かしながら今後も勉強してほしい。指定管理について、畦地社長を招へいして、地元で話を聞く機会を設ければ、運営の微妙なところの話も聞けるのではないかと思う。

### 【オブザーバー】

- ・中能登町さんのトイレなどは男子トイレで中庭が見える造りにするなど特徴を持たせた。
- ・地域連携で、こだわりの農産物や海産物のなかで、何をメインにするかが課題。

#### 【オブザーバー】

・羽咋らしさの中で、砂浜や松林、夕日というものが挙がっているが、すごく綺麗なイメージばかりだが、あまりにそれを強調すると、来る人はそこをすごく期待してくることになる。しかし、天気が悪く、がっかりさせることになったら、リピーターが来なくなるのではないかと思う。映像を放映するというのは1つの方法としてはいいと思う。今度また来てみようと思わせる仕掛けである。

#### 【事務局】

・今回は、皆さんからこれまでに、コンセプトや機能、運営主体などの意見・思いをいただきました。それらの意見をもとに、今回は基本構想案を実際にお示しさせていただき、加除修正すべき箇所などのご指摘、ご意見をいただき構想を作りたいと考えている。

#### 4 その他

次回開催日：平成 26 年 9 月 22 日（水）19：00～